

環境報告書

1、環境方針

(環境理念)

(有)山形パッケージセンターはロジステックス専門企業として、環境保全の重要性を深く認識し、保管、運輸、流通加工などの事業活動を通じて、自然環境の保全に留意し、循環型社会の形成をめざし、地域、地球環境の維持、向上に貢献する。

(環境方針)

1. 事業運営において、環境マネジメントシステムを構築し、運用する。
2. 当社の事業活動における環境側面を認識し、継続的な環境マネジメントシステムの向上と環境汚染の予防に努める。
3. 環境側面に適用可能な法令、条例および当社が受入れた利害関係者の要求事項を順守する。
4. 以下の項目ごとに目的、目標を定め、継続的改善を推進するとともに、内部監査結果などにより見直しを行う。
 - ① 消費エネルギーの削減
 - ② 処理委託廃棄物量の低減
 - ③ 危険物及び化学物質の管理強化
5. 当社の全従業員は、本方針を認識し構築した環境マネジメントシステムを有効に活用する。
6. 本方針は、全従業員に周知するとともに、一般にも公開する。

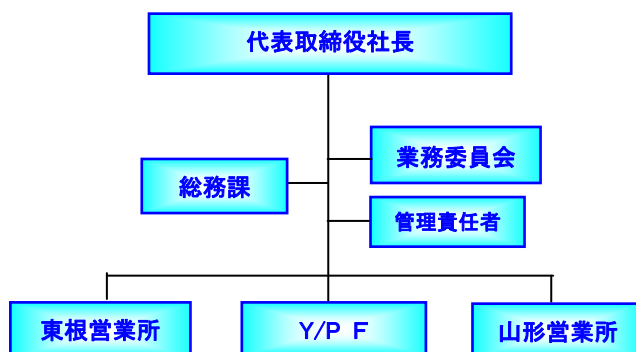
(有)山形パッケージセンター

代表取締役社長

奈良崎信良

2、環境マネジメントシステム

1) 推進体制



2) 環境監査

環境マネジメントシステムが有効かどうか内部監査を年 1 回以上実施するほか、定期的に認証取得機関による外部監査を実施しています

3) ISO14001 への取り組み

当社は、ISO14001 環境マネジメントシステムが環境保全に有効であると認識し、構内の関連会社と一体となった環境保全活動を推進し、2006 年 10 月 18 日に認証を取得しました。

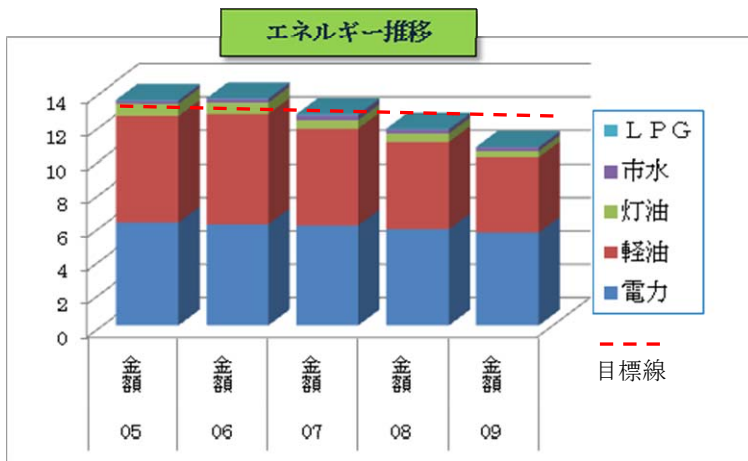
3、環境行動目標と成果

1) 環境方針に基づいて行動目標を定め活動を展開しています。

行動目標に対する 2009 年度の主な結果は次の通りです

<表 1>

活動項目	主な行動目標	主な結果
省エネルギー (グラフ1、2 参照)	① 電力量を 2005 年度基準に 2010 年度までに 5%削減する ② 運送トラック燃料を 2005 年度基準に 2010 年度までに 5%削減する	エネルギーTOTAL : 22%削減 ① 電力量:空調機の温度設定、窓のUVカットフィルム施工、電力のデマンドコントロール 結果:8%の削減 ② トラック燃料は、エコ運転教育等 結果:32%削減
廃棄物削減/省資源・リサイクル	分別排出の徹底やリサイクルの拡大により 2005 年度基準に 2010 年度までに 5%削減する。	廃棄物削減 : 11.6%(目標 1%削減) 倍包装用フィルムなどの資源化活動は '05 の約 2 倍に
危険物保管管理	危険物指定数量の法順守 危険物(含化学物質)流出ゼロ	指定数量日々管理システム構築維持管理 流出時の対応と準備を整備し、各営業所で訓練およびテストを実施



<エネルギー削減目標と実績>

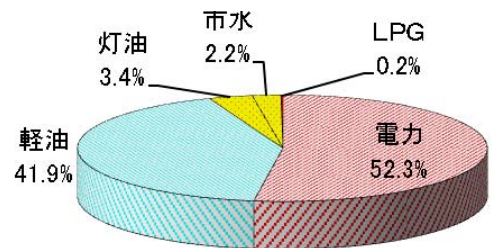
目標：'05 対比'10 まで 5%削減

実績：'09 22%削減 (左図)

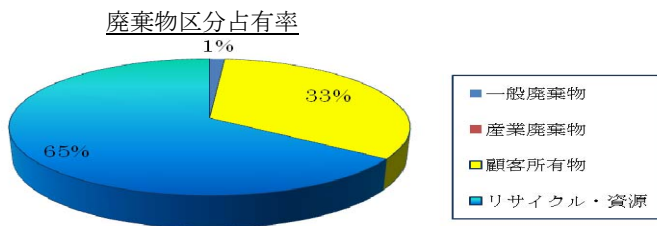
<エネルギー比率>

電力と軽油で約 95%占める。電力は照明と荷役機械の充電に使われる。(右図)

'09 年度エネルギー比率 (金額ベース)



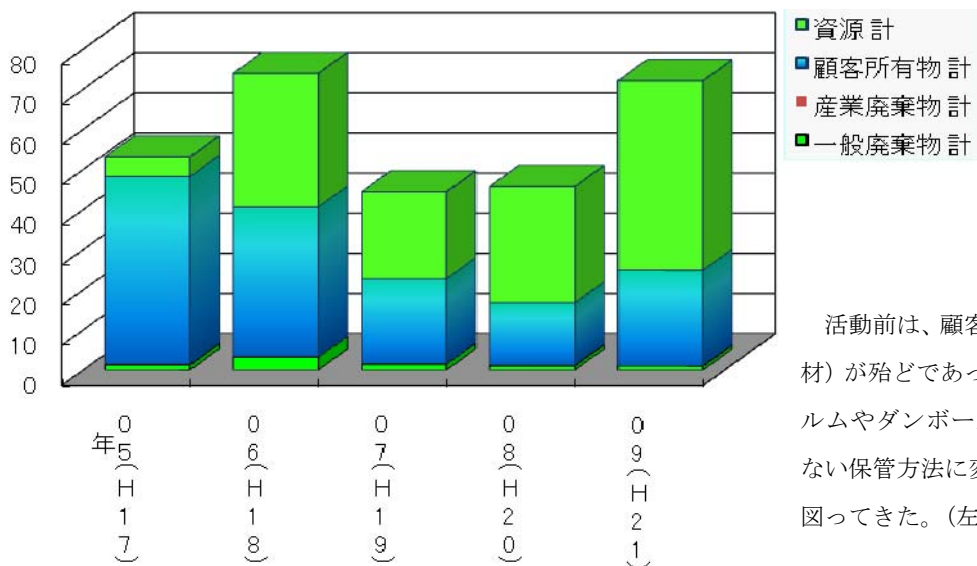
<廃棄物削減活動>



'09 年度の占有グラフでは、顧客所有物や、それをリサイクル化したもので占められる。

産業廃棄物は殆どなし。(左図)

廃棄物量推移



活動前は、顧客の所有物 (装資材) が殆どであったが、樹脂フィルムやダンボールなどを劣化しない保管方法に変更し、資源化を図ってきた。(左図)

4、環境教育とコミュニケーション

1)環境教育

環境意識の高揚を図るため、各部門及び推進事務局において毎年環境教育計画を作成し実施しています。内容は、自覚、訓練、能力教育を社内及び外部セミナー等で実施しています。また、全社員にエコバックを配付し意識の高揚に努めています。

2) 地域社会の環境保全

「美しい心、美しい企業」を合言葉に、「グリーンカード」制度をつくり、功績のあった社員を方針発表会時に表彰しています。また、地域周辺のクリーン作戦を全社あげて実施(写真参照)しています。



本社に隣接する地域には小中学校がある。



山形営業所は工業団地内だが、空きビン缶類が多かった

3) 「環境報告書」をホームページで公開

当社のホームページで環境報告書を掲載し、環境に関する情報公開をしています。

5、環境会計

～環境保全のためにいくら費用を使ったの?～<表2 参照>

環境会計では、環境保全活動の収支と効果を明らかにして、投資や費用に対する効果を知ることで、環境経営の効率化や経営資源の適切な配分を図るために活用します。

弊社の主要な環境保全コストには、ISO14001 運用コストや教育訓練コスト、倉庫部門環境負荷削減として照明設備の点検コスト、運輸部門ではトラックなどの輸送車両のエコ運転及び自主点検コスト、資源循環活動として包装資材のリサイクル、リスク対策として危険物倉庫の管理強化コストとなっています。

以上

‘09 環境会計報告書

(単位¥000) <表 2>

項目	内容	投資		効果		備考(主な活動内容)
		設備投資費・委託費	人件費	経済効果	環境負荷低減(Co2 Kg)	
省資源活用	電力削減対策		100	605	10,631	節電表示、冷暖房機温度設定
	軽油削減対策		150	923	23,211	車両点検整備、アイドリングストップ、表示板設置
	灯油削減対策		5	267	14,388	冷暖房温度設定、点検
	地下水		3	電力に含む	-	
	市水削減対策		3	-56	-90	トイレ貯水量調整
	事務用紙削減対策		50	5	0	裏紙使用、書類の電子化
	その他 LPG		0	35	-15	
資源循環活動	廃棄物の再資源化対策		100	0	17,826	
	発生量抑止対策		50	0	-127	
リスク対策	公害防止対策	50	0		-	
	遵法対策		50		-	
	化学物質管理対策		100		-	教育訓練実施、防護器具設置、防油堤
	廃棄物管理(マニフェスト)		150		-	廃棄物置場整備
サービス環境配慮	エリアの上下流		0		-	
環境活動	人件費、人材育成費	810	500		-	教育訓練延時間、ISO更新審査費用
	社会貢献		350			地域清掃活動
	情報公開	100	125		-	HP 公開、方針公開
	緑化		25		-	山形植樹
合計	合計	960	1760	1,779	65,824	
	収支(経済効果-設備投資額-人件費)		-941			

以上